

## 28. へき地や島しょ部で働く行政保健師が語る 「地域に根ざす」ことの明確化

○篠岡 有雅（香川県綾川町役場 国保総合保健施設えがお）

辻 京子（香川大学医学部看護学科）

大西 美智恵（香川大学瀬戸内圏研究センター）

### 【研究目的】

保健師は、個々の住民の健康問題の把握にとどまらず、地域特性に応じた健康机意を担っていく役割がある。これまでの研究では、「地域に根ざす」という言葉が「ソーシャルキャピタル」や「地域の文化的背景をとらえた」という表現に置き換えられ、本来の意味をとらえきれていないのではないかと考えた。そこで、地域と区営に応じた活動が高く評価されているへき地や島嶼部で働く行政保健師にインタビューすることで「地域に根ざす」ことの本来の意味を明らかにすることとした。

### 【研究の必要性】

各地方自治体に雇用されている保健師は、個々の住民の健康課題への対応にとどまらず、地域の特性に応じた健康づくりを担っていく役割がある。従来より、保健師は「地域に根ざす」という言葉で自らの活動を説明してきた。現在、構築が進んでいる地域包括ケアシステムでは、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる支援・サービス提供体制を整えることが謳われている。つまり、自分らしく暮らし続けることを支える、「地域に根ざす」サービス提供体制の構築が必要なのであろう。その構築の一翼を担う保健師が、本来の「地域に根ざす」ことの意味を理解し、活動にあたることが不可欠であると考えられる。

そこで、地域特性に応じた活動が高く評価されている、へき地や島嶼部で働く行政保健師が語る「地域に根ざす」ことの本来の意味を明らかにする。

### 【研究計画】

研究方法は、半構成的面接方法による質的記述的研究である。研究方法は、研究協力者を西日本のへき地や島しょ部で働く行政保健師とした。データ収集方法は、保健師が「地域に根ざす」こととは何かをインタビューし逐語録を作成した。分析方法は、類似したデータをコード化し、カテゴリを生成した。研究の真実性については、インタビューに協力した保健師たちに、分析の結果を確認してもらうとともに、質的研究の専門家や共同研究者と検討することで高めた。また、学会発表や学術集会のワークショップでも発表し、他研究者と保健師とのディスカッションの機会を持つことで、より「地域に根ざす」ことの本来の意味を探求した。

## 【倫理的配慮】

研究協力者に対して研究の趣旨、匿名性の確保、個人情報の厳守、参加事態により不利益を被らないこと、成果の公表等について口頭と書面で説明し、同意書への署名をもって承諾を得た。なお、本研究は四国大学研究倫理審査専門委員会（承認番号 29019）の承認を得ている。

## 【実施内容・結果】

インタビューは、2017年4月～2019年3月に実施した。協力者は、へき地や島しょ部で働く行政保健師13名で、内訳は新人期2名、中堅期2名、熟練期3名、管理期6名であった。

分析の結果、22のサブカテゴリと6のカテゴリから、コアカテゴリ《限局された地域資源を最大限に生かし暮らしを守る》が抽出された（表1）。

以下にコアカテゴリを《 》、カテゴリを『 』、サブカテゴリを「 」で示し、まずは結果の全体像を説明する。

協力者である保健師たちは、地域や住民のことを知りたいと思い、『地域に分け入り暮らしを知る』ことができ、住民の『そこで暮らし、活動することで地域に馴染む』と感じながらも『限局された地域の中の利点と困難さを知る』ことで、これまでよりも『狭小地域ならではの魅力がある』ことに気づいた。さらに『限られた地域の資源を最大限に活用する』ことの大切さを感じ、『地域特性から保健師の役割を考える』ことから、《限局された地域資源を最大限に生かし暮らしを守る》が地域に根ざすことであると捉えていた。

### 1) 地域に分け入り暮らしを知る

保健師として地域や人々のことを知るために「地域に出向き住民のそばに行く」ようにし、「住民や地域の全てを知りたい」と考え、「一人で模索しながら活動する」ことで苦悩していたが、住民からさまざまなことを教えてもらい「住民の偉大さに気づく」ことができたと感じていた。

### 2) そこで暮らし、活動することで地域に馴染む

協力者自身が、担当する地域に暮らしていることで「そこに住んでいるからこそわかる」ことが多くあり、これまでの活動の積み重ねと合わせ「地域の特徴を熟知して活動する」ことで「顔見知りになった人たちが応援してくれている」ことから、地域に馴染んで活動している実感していた。そして「狭い地域で住民の顔が見えるからこそ頑張れる」と思うようになった。

### 3) 限局された地域の中の利点と困難さを知る

担当する地域が狭小で限局された地域であるため、「容易に情報が入るが漏らさない」ようにすることで住民との関係性を保つようしていた。一方で、住民との距離が近いことから「プライベートを守ることで住民に優しくなれる」と感じ、休息の時間を確保できる工夫をしていた。

表 1 分析結果

地域に分け入り暮らしを知る	地域に分け入り地域を知る
	住民や地域の全てを知りたい
	一人で模索しながら活動する
	住民の偉大さに気づく
暮らしそのものが活動の糧になる	地域の特徴を熟知して活動する
	そこに住んでいるからこそわかる
	顔見知りになった人たちが応援してくれる
	狭い地域で住民の顔が見えるからこそ頑張れる
限局された地域の中の利点と困難さを知る	限られた地域で容易に情報が入るが漏らさない
	プライベートを守ることで住民に優しくなれる
狭小地域ならではの魅力がある	住民の暮らしを守るための努力は惜しまない
	小さい町だからこそ、やりたいことができる
	保健師としての信念をもって活動する
	経験を重ねることで気づくことができる
	保健師とは何をする人なのか伝える
限られた地域の資源を最大限に活用する	限られた資源のなかで関係者が連携する
	自分一人だけでなく関係者の考えを受け入れる
地域特性から保健師の役割を考える	地道な活動から科学的根拠に基づき活動方針を選択する
	住民の立場に沿った仕掛けをする
	住民にとって大切なことは必ず伝える
	一貫して住民を第一に考える姿勢をもつ
	役場職員として住民の暮らしを守る役割を担う

#### 4) 狭小地域ならではの魅力がある

協力者は、保健師自身が楽しめないと思えば住民は楽しくないと考え「住民の暮らしを守るための努力は惜しまない」ようにしていた。保健師が楽しみなら活動できるためには、「小さい町だからこそ、やりたいことができる」ことを最大限に生かし、住民の暮らしを守るために「保健師としての信念を持って活動する」ようにし、その地域での「経験を重ねることで気づくことができる」こともあると思ひ、住民や他の専門職に「保健師とは何をする人なのかを伝える」ことに努めていた。

#### 5) 限られた地域の資源を最大限に活用する

協力者は、住民の暮らしを守るために「限られた資源のなかで関係者が連携する」ことに努め、他の専門職や他機関の役割を理解したうえで「自分一人だけでなく関係者の考えを受け入れる」ようにしていた。

## 6) 地域特性から保健師の役割を考える

協力者は、役場の中で唯一の専門職として「地道な活動から科学的根拠に基づき活動方針を選択する」ようにして地域の健康課題を見出し、解決するために「住民の立場に立った仕掛けをする」ことや「住民にとって大切なことは必ず伝える」ことで、住民が自らの健康や暮らしを考えられるようにしていた。さらに、保健師として「一貫して住民を第一に考える姿勢をもつ」ことであると見え、同時に「役場職員として住民の暮らしを守る役割を担う」ことも意識していた。

### 【考察と今後の課題】

へき地や島しょ部のように狭い地域では住民も皆、顔見知りであり、住民の誰しもが保健師のことを知っている。インタビュー協力者の保健師たちは、その地域に暮らし、その地域で働き、住民としても保健師としても地域の人々との関係性を築き、保つように奮闘していた。

保健師は、そもそも地域特性に合わせて活動する職種であるが、へき地や島しょ部は独自の文化や慣習を持ち合わせているため、地域の特徴や人々の暮らしを熟知したうえで活動しなければならない。協力者たちは、地道な活動から得たことを専門職として科学的根拠をもって課題を見出し、住民が主体的に解決できるような仕掛けをしていた。そして、住民自らが住み慣れた地域の中で、暮らし続けられるように、専門職として行政職として、住民を第一に考えた活動をしていた。協力者たちが考える「地域に根ざす」ことは、限局された地域資源を最大限に生かし暮らしを守ることでありと考える。

今回は、狭小性の強いへき地や島しょ部で働く保健師にインタビューしたが、今後は都市部で働く行政保健師にインタビューを実施し、地域に根ざすことがへき地や島しょ部で働く保健師と異なるのか否かを検証していきたい。

### 【参考文献】

田中美延里・小野ミツ・小西美智子，2005，先駆的な公衆衛生看護活動を展開し保健師のキャリア発達—離島の町の保健師のライフストーリーから，広島大学保健学ジャーナル，5(1)：16-27.

### 【経費使途明細】

使 途	金 額
交通費（共同研究者及びディスカッション協力者）	125,570 円
謝礼（手土産代）	1,728 円
合 計	127,298 円
大同生命厚生事業団助成金	300,000 円

※差額 172,702 円を返還